

83 「教育立村への挑戦～魂の言葉『貧すれど食せず』を今こそ～」を読んで！

堂本 彰夫

(1) 「グリーンウッド自然体験教育センター」にみる、「NPO法人」の究極の姿?!

今回もまた、雑誌『(大判) 社会教育』(2021年5月号)の記事(提言)からであるが、私にとっては、非常に懐かしい?、長野県泰阜^{やすおか}村の、標記「グリーンウッド自然体験教育センター」の代表理事Tさんの激白?記事が掲載されていた!前号での予告で、掲載されることは分かっていたのであるが、改めて、彼の「魂の叫び?」を読んで、旧来の知人(友人?)の、今般のコロナ禍による窮状(苦しみ)はともかくであるが(もちろん、今は、このことが大きな問題ではあるが!)、彼らが有している、いわゆる「NPO(法人)」の存在意義と可能性、というよりは、まさに彼らが果たしてきた「人づくりと地域づくりの循環」の大いなる成果を、改めて見つめ直すことが出来た!

とにかく、彼らのような「NPO(法人)」(他の形態のそれも同じであるが!)が、いかに社会(地域)において必要なのか!現在、社会教育、否、実質的には教育全体において、「人づくり」「絆づくり」「地域づくり」の循環が求められていると言えるわけであるが(そのように理解していない人も、多々いるようであるが?)、彼らの35年に亘る実践と成果、否、それよりも何よりも、これから(未来)における、彼らのような「NPO(法人)」の存在意義と可能性を考えていくことは、今、絶対に必要なのではないかとも思い、彼らに対しては、何の力にもなれない私ではあるが、それについて思いを寄せさせてもらうことにした次第である!

ちなみに、Tさんには、私が現役(R大学在職中)の頃、沖縄にも、何度か来てもらって(共通の知人との、別な関係でのついで?という時もあったが!)、様々な形で協力してもらったことがある!また、一度、そうしたことが縁で、長野県の当地(センター)まで、一人の連れ(教え子?)と一緒に訪れたこともある!そこは、本当に、遠かった!そして、寒かった(時期は冬だった?)!しかし、そこに集まっている人達の(地元の人達も含めて!)、何か凄い熱気というか、思いの強さみたいなものを感じたことを、今でも鮮明に覚えている(美味しい酒も頂き、かなり酔酺?したことも!)!

さて、こんなことを書き出すと、すぐにスペースが一杯となり、肝心なことが、何も書けなくなるので、懐かしさと、その記憶の披瀝はこの辺で終わるが、とにかく、ここで言いたいことは、この「NPO(法人)」が、とてつもない社会貢献を行い、その実績、先駆性には、まことに計り知れないものがあるということである!しかも、その中には、その存在が、かのコロナ禍によって、大きな苦境に立たされているわけであるが、それを、地域(村行政)と一緒に乗り越えようとしている!そこにある相互の信頼と協力関係が、実に貴重?で、示唆的であるということが含まれるということである!

そして、もう一つは、一人の若者が(確か福井県出身だったかな?)、大学は北海道(H大学)であったにも拘わらず、あんな信州の山の中(失礼だが!)に飛び込んで、爾来、同センターの定着と発展に、自らの青春(人生?)を預けたということである!その経緯等については、個人的にも聞かされているが(恋バナも含めて!)、ここでは、そうした思いある人達(特に若者達)が、たとえ「ヨソ者」である(った)としても(「だからこそ」ということもあるが!)、「そこにはいる(た)！」ということの意義(素敵さ?)をアピールしたいのである(ただし、これについては、島根県隠岐の島(海士町)のIさん達のことも、同じように思い起こされる私ではある?)!

なお、同センターの事業や足跡を記した、彼の著書『奇跡のむらの物語 1000人の子どもが限界集落を救う!』(2011年、農文協)は、多分?多くの人に読まれていることであろうが、実は、私は、彼(ら)を、特別な、一人の「スーパーヒーロー」として見たくはない!また、「時流に乗った成功者」とも思いたくはないのである(「天狗?」になる人もいるので?)!多くの理解者・支持者が(便乗?してきた人達も含めて?)、そこにはいたということである!否、正確に言えば、そういう人達を、長年の言動の積み重ねの中で(汗水垂らしながら?)、獲得していったということである?!まさに、そこに、苦難の連続があったということでもある(ここが凄いのである!)?!

(2) 何故、「貧すれば食(鈍?)する」ではないのか?!しかも、敢えて、「鈍」を「食」にした思いは?!

そこで、改めて、「貧すれど食せず」という冒頭の言葉であるが、これは、人口1600人弱の小さな山村「泰阜村」の“魂の言葉”とある!そして、それは、いわゆる「貧すれば鈍する」とは真逆の言葉であるということである!「鈍」を「食」に代えて表現しているところが、実に素晴らしい(奥が深い?尤も、私は、その格言は、もともと「食」だと思っていたが、この期に及んで、その間違いを、改めて知らされたことになる!ちょっと複雑?)!ただし、これは、昭和初期の世界恐慌の頃の同村の、「日本唯一といわれる村立学校美術館建立の精神」だということでもある!「鈍」ではなく、「食」にした人々の思い!今も、その訓えは、生きている?!

多少長くなるが、「今なお国道も信号もコンビニもない。産業は廃れ、若者の流出で疲弊しきった山村を、再生する切り札など存在しないかのような。そんな村の住民にとって、『村の自然環境が“教育“によい』と考えるNPOが、1年間の『山村留学』を実施することは、到底理解できないことだった(1986年)。当時はIター

ンやNPOという概念がまだ市民権を得ていない。しかも森林や田畑などの自然を資本にした生業を諦めつつあった村民にとって、彼らは『招かれざるヨソ者』だった。しかし35年後の今、この『山村留学』やそれを支える『信州こども山賊キャンプ』は社会的事業に成長した。小さな村にあって20人弱の若者を雇用するNPOは『優秀な大企業』だ。スタッフは村に居住し、結婚して家庭も持つ。自治会や消防団等地域を支える組織の担い手としての期待にも応えた。ヨソモノの動きに呼応して、村の有志が起業して民宿や農業経営を始めた。さらに、子どもの週末や放課後の体験活動を支える仕組みや、大学生や若者夫婦が自然や民家で学ぶ仕組み等、自主的な活動が次々と組織化され始めている。」

「このような『自律』への取り組みに刺激され、若者のU・Iターンが増えて(ここ7年間で114人)青年団まで復活した。『山村留学』の卒業生がIターンで村に定住する現象(Sターン)も始まり、村に3つあった限界集落は消滅しつつある。そして村に一つの保育園に待機児童まで出るようになった。まさに『ヨソ者』が行う『教育』が地域再生の中心に位置付き、疲弊しきった山村に希望の灯がともりつつある。」

何と言う素敵に変化、何と言う驚くべき実績なのであろうか！まさに、そこには、「人づくり」「絆づくり」「地域づくり」が、あたかも渾然一体となって(理屈的には、「ひとづくりとまちづくりの循環」!)、行われてきたのである！そのプロセスこそが、まさに「貧すれど食せず」ということであつたのである！残念であるが、ここでは、その「山村留学」(「暮らしの学校『いだらぼっち』と名付けられている)や「信州こども山賊キャンプ」のことは、直接には紹介できないので、同センターのHP等で、改めて、確認して欲しい！

(3)結果的にはあるが、ここには(も)、「教育/学習」の「三(四)層構造」「曼荼羅図」の構図がある?!

いずれにしても、この取り組みは、いわゆる「教育立村(国)」のそれとも言えるが、それは、まさに「教育(人づくり)」を基盤とした、「政治」「経済」「文化」等の融合的発展を期するものである！ただし、ここでは、それが、いわゆる「学校教育」(狭い意味での「教育」ないしは「子ども達への教育」)だけの視野・範囲ではなく、従来「社会教育(行政)」が担ってきた「地域全体の教育(人づくり)」(現実的には、あるいは制度的には曖昧で、緩やかである！したがって、多くの人には、その存在や、それ自体の意義が実感されていない?)に目を向け(もちろん、核は、子ども達の「自然体験/集団生活/協働体験活動」であるが!)、そこから生まれる「人づくり」「絆づくり」「地域づくり」の要素(成果)が、NPOではあるが、当センターの存在、働きかけによって実現しているということである！そして、そこに、「教育/学習」の「三(四)層構造」「曼荼羅図」の構図があるということである！

すなわち、これは、換言すれば、「行政」(だけ)ではできない！「地域(住民)」(だけ)ではできない！ましてや「学校」(だけ)ではできない！そして、他ならぬ「NPO」(だけ)でもできない！そういうことを指し示している典型的な取り組みと言えらるということである！もちろん、その地だから、彼らだからできる(た)ということではあろうが、その基本構図は、現在の「地域づくり→まちづくり協働」と「人づくり→地域学校協働活動(教育協働)」に対する大いなる示唆となり、教訓?ともなることは言うまでもないのである?!ただし、これについては、ここでは、これ以上は書けない！

とは言え、これについては、ある意味皮肉な話ではあるが、現今のコロナ禍に苦慮する、当該の機関・関係者にあつては、最も大切な要素、それは、はっきり言って「カネ」であるが、それがなくなると、哀しい現実が待ち構えているということも含まれている?!つまり、そういう厳しい状況の中で、改めて「人づくり」「絆づくり」「地域づくり」を、どのように進めていけばよいのか、その辺りまで考えさせる事例だということでもある?!ただし、ここでは(私の観点からでは)、「人づくり→地域学校協働活動(教育協働)」からみた、大切なメッセージであるということにはなるわけである?!

しかも、このような取り組みは、農山漁村の小さな自治体、島嶼部や山間部の地域だからできる(た)ということは、ある意味では言えるであろう！隔絶された「人、もの、カネ、事業」を、いかに効率よく集約させ、自らの生活や子育てを、みんなが協力してやらなければ、その地域・集落自体が、まさに消滅するような状況が、そうさせたといえるということである(学校の統廃合の問題も、そこにある!)！しかし、そうはあつても、現実には厳しいもので、全国のほとんどの、そうした自治体・地域は、それに向かってまっしぐらとも言える(既に、消滅した集落あるいは学校は数限りなくある！過去何度も言ってきたが、少なくとも小学校は必須である!)?!

だが、そうした厳しい状況にあつても、それを克服し、逆に、新たな出発・発展に向かいつつあるところもある?!そして、そこには、必ず「思いのある人」がいる！あるいは、そういう「思いのある人のネットワーク」が構築されている！それは、何も、ある特定の地域・人達ばかりの現象・光景ではない！いわゆる「都市部(都会)」においても、状況は同じである！ただ、「見えない！見なくても、一応は済んでいる！」そういうことなのである?!しかるに、残念ながら、大きな災害等に出くわした時には、そこにある危うさ、脆さが、一気に露呈する?!先の東日本大震災は、そうしたことを我々に告げた！そしてまた、今般の「コロナ禍」も！

最後に、Tさんは言う！「方向性の知」を生み出せ！地域とこども・若者に夢と学びを！そして、「未来への熱意」は、複数の小さな地域同士のネットワーク構築(交換留学/「信念ある地域間ネットワークによる人材育成・人材還流」)、アジアへの視野の拡大、4年制大学の創設へと続く！頑張れ、グリーンウッド！頑張れ、Tさん！